

2018年4月クルディスタン報告書

日本クルド友好協会



南クルディスタン(イラク領北部クルディスタン地域)

Başurê Kurdistanê



・イラク議会選挙とクルドの分裂

来月 12 日に実施されるイラク議会選挙に向けた動きがクルディスタンでも活発化している。16 日、クルディスタン民主党(KDP¹)はバグダッドで影響力確保のため議会選挙で浮足立つクルド諸党派に向けて団結を訴える集会を開催した[16 日、ルダウ]。KDP の訴えとは裏腹に、クルディスタンには住民投票の時とは異なり分裂状態にある。KDP が統一戦線を組めないだけでなく、多くのクルド人候補がアラブ側会派で立候補している。象徴的なのがクルディスタン愛国者連盟(PUK²)の元イラク議会内会派リーダーの同党からの離反である。PUK の創設者ジャラル・タラバニの姪であるアラ・タラバニはバグダッド会派からの立候補を決定した[21 日、ルダウ]。イラク側もクルディスタンの政治的分裂を煽っている。26 日、アバディはスレイマニで選挙運動を行った[26 日、ルダウ]。イラク国民の団結を訴えたが、その真意は KDP に敵意を抱く PUK の中心地で反 KDP のクルド人を味方につけることである。弱小政党は党勢拡大のため KDP の統一戦線から遠ざかっている。26 日、クルディスタン・イスラム連盟は、中央政府にクルド人の権利を認めさせるため選挙戦へ打って出ることを宣言した[26 日、ルダウ]。イスラム政党は IS の惨禍の煽りを

1 クルディスタン民主党の英語名 Kurdistan Democratic Party の頭文字をとったもの。クルド語では、Partîya(党) Demokrata(民主) Kurdistanê(クルディスタン)を略して PDK。

2 クルディスタン愛国者連盟の英語 Patriotic Union of Kurdistan の頭文字をとったもの。クルド語では、Yekîtiya(統一) Nişmanîya(民族主義者) Kurdistan 略して YNK。

受け支持を落としていた。今回の総選挙は KDP の求心力低下に乗じて支持を回復するいい機会と見ている。

・IS の脅威が残るキルクーク

15 日で、[往来する自動車を狙った爆弾テロが発生](#)した[15 日、ルダウ]。キルクーク警察報道官によると、テロ攻撃は[テュルクメン戦線の候補者を狙ったもの](#)だという。キルクークでは 14 日より選挙活動が始まっていた。犯行声明は出ておらず犯人やテュルクメン人候補を狙った理由は不明だ。疑われるのは IS の関与だ。4 日、ペシュメルガ省長官ジャバル・ヤワルは、[記者の取材において IS は以前大きな脅威であると発言](#)した[5 日、バスニュース]。キルクークを支配下に置いているイラク治安部隊やシーア民兵連合・人民動員軍の無能ぶりが明らかになれば、各国はペシュメルガによる治安の回復を望むだろう。そうなればキルクーク奪還の機運が生まれてくる。それゆえイラクはキルクークの治安がクルド人支配時より不安定化していることに苛立っている。19 日、イラク内務省は[キルクーク付近で IS 支配下の村が存在するとの風評を否定](#)した[26 日、ルダウ]。クルド人は「敵の敵は味方」の論理で IS の復活を期待しているわけではない。IS はイラク、シリアにおいて諸勢力の対立を利用して台頭しまた生き延びてきた。イラク側がクルド側の権利を擁護しまたイラン傘下の民兵の横暴を抑止しない限り、相互の対立は続き IS の温床は残る。

・クルディスタン地域政府首相の弟の死



ディロワン・バルザニ氏 Facebook より

2日、クルディスタン地域政府 (KRG³) 首相の弟ディロワン・バルザニ氏が51歳の若さで死去した。ディロワン氏は、KRG 内にポストを持たないものバルザニ家の一員として多くの催事に出席し、一族の顔として振舞ってきた。バルザニ家が主導するクルディスタン民主党 (KDP) が、70年代にイラク国家に対する蜂起に失敗した後に KDP の学生組織に参加した。彼は学生組織を再建し多くの文化的活動を主催してきた。そのため、イラク首相アバディ始め、[アメリカ国務省](#)他幅広い関係者が弔辞を送った。イランのイスラム革命防衛隊、クドゥス⁴旅団を率いるカーセム・ソレ

3 英語名 Kurdistan Regional Government の頭文字をとったもの。クルド語では Serokayetiya(または Hikûmet、政府) Herêma(地域) Kurdistanê。参照：[クルディスタン地域政府大統領府公式サイト](#)

4 エルサレムのアラブ側呼称。

イマニも、[ディロヴァンの死を悼むメッセージを KRG に送った](#)[9 日、ルダウ]。さらに KDP と敵対するクルディスタン労働者党 (PKK⁵) も、「クルディスタンにとって大きな損失」と ディロワン氏の死を悼んだ。

・北クルディスタンとの連帯

8 日、トルコ領クルディスタン最大のクルド系政党人民民主党 (HDP⁶) は、[南クルディスタン訪問の記者会見にて、クルド民族会議の開催を訴えた](#)[8 日、ルダウ]。同日、「民主主義と正義連合」指導者バルハム・サリフは、[トルコのクルド系政党人民民主党 \(HDP\) 議員オスマン・バイデミルを「全てのクルド人の心の中にある」と称賛した](#)[10 日、ルダウ]。バイデミル議員は、昨年 12 月大国民議会における発言で「クルディスタン」という言葉を発し、議長に「それはどこにある？」と質問されると「[ここにある](#)」と彼の胸を叩いたことで多くのクルド人の喝さいを受けた。マスード・バルザニもまたバイデミル議員に対し同様の賛辞を送ったと伝えられている。

・シエンガルから PKK 撤退

2 日、PKK は[2年以上駐留を続けてきたシエンガルから撤退を開始した](#)[2 日、ユーフラテスニュース]。PKK シエンガル司令官は、撤退に先立った祝賀会において「任務完了」を表明した。



シエンガルから撤退する PKK 写真: @D_abdulkader

PKK は 2014 年 8 月に IS がシエンガルを攻撃した際に、ヤジーディ保護のため戦ったことでシエンガル住民の支持を得た。PKK は KDP のペシュメルガが撤退後もシエンガル山地を中心に IS への抵抗続けた。トルコは PKK の拠点が増えることに懸念を示し、排除を企んできた。シリアのアフリンを占領したトルコは、[シエンガルもトルコ軍の侵攻の目標だと表明](#)している[5 日、ルダウ]。PKK はトルコ大統領エルドアンを嘲笑うかのように、素早くその出鼻を挫いた。シエンガルには既に PKK の指導で設立されたヤジーディの自衛部隊シエンガル抵抗隊と政治組織ヤジーディ自由と民主主義党が存在する。PKK が撤退しようともその影響力は維持できる。7 日、トルコ軍は[イラ](#)

5 クルディスタン労働者党のクルド語、Partîya Karkerên(労働者) Kurdistanê の略。

6 トルコ語の党名 Halkların(人々) Demokratik Partisi の略。意味としては「あらゆる人々の民主主義党」だが、便宜上「人民民主党」、「国民民主党」と称されることが多い。

[ク北部でPKKの拠点を空爆し6人のゲリラを殺害](#)したと発表した。今回の撤退は、トルコ軍が国境地帯での作戦を活発化させていることに対抗するための部隊転進でもある。

ロジャバ(西クルディスタン、北シリア)

Rojava Kurdistanê



・東グータからアフリンへ

アサド政権は先月31日、[ダマスカス近郊東グータ地区から反体制派戦闘員を全て退去させることを「約束」](#)した。東グータにおける反体制派最大の拠点ドゥーマでは、最後まで降伏に抵抗したイスラム軍が撤退に合意し、アサド政権が用意したバスが戦闘員とその家族を乗せ次々と北へ出発した。イスラム軍司令官は、[撤退を決めた理由として「住民の圧力」に](#)応えたという趣旨の[文書を配布](#)した[8日、シリア人権監視団]。住民は「イスラム法廷」の前で自由を叫んだとも伝えられる。このように支配地で住民から憎悪されていた連中の行先がテロリスト安住の地・イドリブではなく、北シリアであることが大きな波紋を呼んでいる。5日、[シリア人権監視団は東グータ・ドゥーマから退去させられたテロリストとその家族の一群が、北シリアのトルコ占領地域に到着したと](#)伝えた[5日、シリア人権監視団]。神の軍団やイスラム軍といった”穏健派”反体制派武装勢力の移送先が、イドリブではなく北シリアであることは大きな意味を持つ。彼らはトルコ指揮下で新たな部隊に編成されクルド人と戦うための傭兵になることは間違いないからである。それらテロリストの一部はトルコに渡りトルコ国内のクルド人と戦う武装集団になることも考えられる。またアサド政権から逃れた反体制派勢力の北シリアへの入植におけるエルドアンの本狙いは、現地で住民投票を仕込みトルコへの帰属を望む結果を演出することで、シリアの領土をトルコに併合することである。エルドアンは領土的野心を隠そうとせず、[ロシア外相ラブロフによるアフリンをアサド政権へ返還すべきとの提案を「最悪」だと一蹴](#)した[10日、ロイター]。「PKKの脅威」を排除するだけならば、クルド人勢力の掃討後アサドに支配地を返還すれば問題はない。

クルド人ジャーナリストによると、トルコはトルコ国内、北シリア、イラク北部で「イスラム軍」を設立した。彼らがSNS上に投稿したとされる映像には、シリア反体制派の旗印であるフランス委任統治領時代のシリア国旗と並んでトルコ国旗が掲げられていた。



トルコはアサド政権に降伏しその支配地から逃避したテロリスト達を、対クルドの民兵として統一的な指揮系統の下に置こうとしていると見ることができる。

・アフリンで横行する「コーランか剣か」

ロジャバのメディアであるハワルニュースによると、[トルコ軍に占領されたアフリンでは、ヤジーディ住民にイスラムへの改宗を強要する事例が報告](#)されている[1日、ユーフラテスニュース]。シャフバやジンダレスの20カ村で強制改宗が行われたという。これはISがヤジーディに対して行ったことと同じである。また現地住民からのリークによれば女性へのベールの強制も行われているという。トルコ人や反体制派シンパは、トルコやその傭兵のイスラム勢力の解放によって、クルド住民はイスラムへの信仰を回復したのだと主張する。支援したISがもはや存在しないのであれば、トルコ自らイスラムへの強制改宗をすと言わんばかりである。8日、PYD公式Twitterは[アフリン大学芸術学部で教鞭をとっていたアブドゥル・マジド・シェイホ教授がトルコ軍に逮捕されたと投稿](#)した[8日、Twitter:@PYD_Rojava]。トルコ占領勢力は、イスラムを強制するのみならずアフリンからクルド文化を根絶するため知識人への弾圧まで実施している。

・アサドとクルドの関係

6日、[アフリン地区内の要衝タル・リファットでアサド政権側勢力による若い男性の兵隊狩りが行われたとの情報](#)が報じられた[7日、北シリア監視団]。北シリア監視団によるとアサド政権側勢力が兵隊狩りを行う中、地区を防衛する北シリア連合軍シリア民主軍(SDF⁷)が黙認したとのことである。これを防ぐためSDFがアサド政権側勢力と衝突したという情報と、SDFは撤退中でアサド政権側勢力の狼藉に無抵抗だったという住民の証言を伝えている。北シリア監視団は、シリア人ジャーナリスト並びに人権活動家による北シリアを支配する諸勢力の動向並びに人権侵害を監視するための集団を標榜している。その報道姿勢は「中立」ではなく、明らかに反アサド政権、反クルドである。反体制派はクルド人勢力をアサド政権と連携していると事実無根の非難を繰り返してきた。クルド人勢力はクルド人居住地に侵入してきた「自由シリア軍」を名乗るイスラム過激派と戦ったが、政権と協力関係にあるわけではない。事実ハサカ、カミシュロで何度も政権側民兵と干戈を交えてきた。13日、アサド政権側民兵組織祖国防衛隊は、[ラッカ北方アイン・イッサに](#)

7 シリア民主軍の英語名、Syria Democratic Forcesの頭文字をとったもの。クルド語ではHêzên(軍) Sûriya Demokratîk。

[位置する SDF の基地へロケット弾を撃ち込む動画を公開した](#)[15 日、「報道陣」]。また、アサドは SDF に占領された油田地帯の奪還を諦めていない。29 日、シリア国営テレビはシリア・アラブ軍並びに民兵組織は、[東部デリゾールにおいて SDF 占領地を奪還した](#)と報じた[29 日、プレステレビ]。同日、SDF は[アサド政権側勢力に反撃し占領地を奪還した](#)と発表した[29 日、「日報」]

・IS の復活

トランプの撤退発言騒動について、[ワシントンポストはアメリカの撤退は IS の復活をもたらすというクルド人の声を伝えた](#)[5 日、ワシントンポスト]。[トランプはその後考えを改めシリアに関与を続けていくことに同意したようである](#)[5 日、中東モニター]。モスル、ラッカという二大拠点が陥落し、旗揚げに参加した旧イラク軍や空軍情報部の残党といった有能なブレーンを失った今、実際問題として IS が復活するというシナリオは考えにくい。クルド人は過去にアメリカに協力し用済みになったら捨てられたという苦い経験がある。トルコの侵略とアサドの攻撃に曝されるロジャバにとって、IS の脅威はアメリカの継続的支援を引き出すために必要なカードなのである。同胞を虐殺、誘拐し、トラウマのある毒ガスさえを使用した IS の存続をクルド人が望んでいるわけではない。IS の脅威が薄れたとしても、クルド人がアメリカ政権中枢にとって魅力ある提携対象と映る要素はある。トランプは以前「[自分はクルドの大ファンだ](#)」と発言したことがある[2016 年 7 月 22 日、ルダウ]。アメリカの諸政策を左右するトランプの「気分」において、クルドは比較的有利な位置にあるといえよう。ブッシュ政権時代の安全保障評議会議長であったマイケル・ドラン氏は[ニューヨークタイムズに「トランプはよりトランプ的であるべき」とのコラムを投稿した](#)[10 日、ニューヨークタイムズ]。IS の完全壊滅のためには、クルド人が抱く裏切りへの不安を無くす必要がある。トランプにはさらなるクルド人支援の約束、エルドアンへの断固たる姿勢が求められる。

・強化される対土防衛線

北シリアはアメリカ軍に加えフランス軍も駐留することで、さながら対トルコ連合軍の前線基地となりつつある。4 日、[有志連合軍によるマンビジュの防衛線が強化](#)されていることが明らかになった[5 日、フォックス]。8 日、エルドアンの義理の息子であり資源相を務めるベラット・アルバイラクは、[AKP の定例会議においてトルコは「事実上の戦争」ではなく「公式の戦争」状態にあると発言したと伝えられた](#)[8 日、トルコ詳録]。エルドアン政権は、対クルド戦争をジャラブルス、アルバーブ、アフリンといった局地戦で終わらせる気はないということを示す。欧米諸国はトルコの戦争の意志を前にして、クルドを見捨てての撤退ではなく抗戦の意志を示している。もはや対 IS 有志連合は対土大同盟になりつつある。14 日、[ダマスカス郊外のドゥーマにおけるアサド政権側勢力による毒ガス攻撃「疑惑」に対する懲罰として、アメリカはイギリス、フランスと共にシリアを攻撃した](#)[14 日、BBC]。これはシリア問題において無力な欧米の面子を保つための示威行動であった一方、有志連合の共同作戦遂行のための演習的な側面も考えられる。今回の攻撃はロシアに配慮したものであり、アサド政権側勢力に大きな損害を与えていない。エルドアンは、[即座にこの攻撃](#)

[へ支持を表明した](#)[14日、ロイター]は、有志連合はトルコに対し許容範囲を超えた行動を取った場合の措置を見せつけたとも言える

トルコは有志連合への攻撃を避けつつもクルド人支配地域へ軍事挑発を続けている。25日、[トルコ軍は国境付近に位置するカミシュロ近郊を砲撃した](#)[26日、ファールスニュース]

北クルディスタン(トルコ領南東部)

Bakurê Kurdistanê



・HDP 新代表選出

12日、HDPは党大会において元共同代表二人の不当逮捕以来となる[新たな共同代表を選出した](#)[12日、ユーフラテスニュース]。



新共同代表のテメリ氏(左)とバルダン(右) 写真：ユーフラテスニュース

・デミルタシュの裁判

[トルコ国家による不当拘禁下にある HDP 元共同代表セラハッティン・デミルタシュは、1月に初めての審理が始まり、1年2か月ぶりに公の場に姿を現した。](#)そして11日、[デミルタシュの三度目の審理が行われた](#)[12日、ユーフラテスニュース]。デミルタシュは、改めて本裁判が法に基づくものではなく、政治ショーであると主張した。裁判を利用してエルドアンに不都合な真実を明らかにしようとしている。2014年10月、[ISの大軍がコバニを包囲しようとしていた時、当時のトルコ首相アーメット・ダウトールから受けた言いがかりについて自己弁護した](#)[12日、「もう一つの真実」]。コバニが危機的状況に陥った当時、トルコ国内のクルド人は同地の同胞を救うべくトルコ政府に

支援を要求するべくデモを行った。デミルタシュ氏は同時期に全くの別件でアメリカへ渡航していた。ダウトールはコバニを巡り外国と共謀しようしていると嫌疑をかけたのである。この一件はデミルタシュ氏の嫌疑を晴らすのみならず、トルコとISの協力という「不都合な真実」に触れる危険な内容である。元代表の政治裁判の傍らで、HDPに対する不当な弾圧は続いている。3日早朝、[HDP 党員を含む 12 人が摘発](#)された[3日、ユーフラテスニュース]。その理由は明らかにされていない。19日には、[前述のバイデミル議員含む 2 名の HDP 議員が、議員資格をはく奪](#)された[19日、「自由」紙]。

・エルドアンの食い逃げ 早期選挙

18日、トルコ大統領エルドアンは [6月24日に議会選挙と大統領選挙を同時に行うと表明](#)した[18日、CNN]。トルコリラが再びクーデター騒動後並みに下落していることや、シリア北部に軍事介入したことで早期に更なる強権を得ようとしていると見られている。エルドアン最大の脅威はHDPのデミルタシュの裁判が始まったことも大きい。デミルタシュのテロ組織への加担という嫌疑がでっち上げなのは明らかだが、それゆえ今回の裁判で有罪を立証できず釈放しなければいけない流れになる可能性がある。デミルタシュが実質大統領候補になれない内にエルドアンは再選しようという腹なのである。

・「ヨーロッパの重病人」と化すトルコ

トルコは2015年に国内のクルド人との戦争に突入して以来、シリア、イラクでも侵略行為を活発化させ欧米の疑念を招くことになった。大きなクルド人集団が存在しない周辺国にも軍事挑発を仕掛けている。トルコは[今月もまたギリシャに対して軍事挑発を数多く行った](#)[20日、ゲートストーン研究所]。トルコは、今やヨーロッパの重病人に戻りつつあり、亡国の歴史を繰り返そうと危険な兆候を見せている。トルコには誤った政治指導者によって伝統的友好国、同盟国を裏切り、遂には戦争を仕掛け敗北したという過去がある。オスマン帝国はかつてロシアの南下を防ぐ駒としてイギリスの支持を受けていた。三国協商成立により敵国ロシアがイギリスの同盟国となるという、国際秩序の変化を受け入れられず選択を誤った。ドイツ鼻根の軍人が独裁的権力を取り、ドイツと同盟を結ぶに至って亡国への道を選んだ。アナトリア分割の瀬戸際で権力を取ったトルコ建国の父ムスタファ・ケマルは、帝国末期の愚鈍な軍事独裁者とスルタンとは違い、第2次大戦では中立を謳い戦後はNATOに加盟する等現実路線をとった。それによりイギリスに代わり覇権国家となったアメリカから対ロシア防波堤としての役割を与えられ、19世紀同様の立場へ復帰した。そのためこれまでトルコは、ハタイ併合やキプロス侵攻といった「少々」のことは見逃してもらってきた。またPKK対策でもアメリカやその同盟国イスラエルの支援を受けた。しかし、冷戦時代が終わり、これまで反共の傭兵としてアメリカが育ててきた側面もあるイスラム過激派が欧米に牙をむき、さらにそれらが国を名乗るに至って状況は一変した。アメリカはイスラム過激派対策に無力な同盟国トルコより、イスラム過激派から秩序を守り積極的に戦うクルドを同盟相手として選んだ。これはアメリカによるトルコに対する敵対行為を意味しないが、トルコはアメリカによる敵対行為とみなした。本来トルコ政府の為すべきことは、アメリカを責めることではなくクルド人への敵視をやめ対話を通じ共存の道を探ることであった。そうすれば建国以来の問題は解決し、アメリカとの同

盟も維持できる。それと逆の選択をしたエルドアン政権のトルコは、オスマン帝国末期と同じく破滅への道を突き進んでいる。エルドアンは現代のトルコ帝国スルタンを目指しているとも言われるが、正に亡国のスルタン・アブデュルハミド2世の愚行を繰り返そうとしている。トルコを訪れたイギリス貴族院議員アレックス・チャーリーは、[トルコがロシアとの関係を深めようとしている動きに懸念を示し、トルコはヨーロッパの一員であり続けて欲しいと発言した](#)[9日、「自由」紙]。トルコは欧米を敵視し、ロシアを重視しているのも過去と同様に危険な兆候だ。ただ過去と違うのは、ロシアはトルコを戦略的パートナーとみなしていないことである。旧来の同盟国を捨てさりとして新たな同盟国を得られない外交の袋小路に陥っている。オスマン帝国末期以上にトルコ情勢は困難を極めている。

東クルディスタン(イラン領西部)



・クルド人の反抗続く

13日から、[イラン—イラク国境付近の町で商店主たちが国境の閉鎖、増税に反対してストライキに踏み切った](#)[18日、ユーフラテスニュース]。



ストライキによって閑散としたバザール 写真：ユーフラテスニュース

この動きが瞬く間にバネ、マリワン、マハーバードといった都市にも波及した。これといった産業もなく雇用も少ない東クルディスタンにおいて、イラクのクルディスタン地域との交易はクルド人にとって現金収入獲得の手段になっている。イラン政府は事態を憂慮し宗教指導者を現地に送り込み住民の説得に乗り出したとも伝えられた。21日、騒動が広がったシネ州知事は[国境開放を阻む障害の除去と早期の開放を宣言した](#)[21日、ユーフラテスニュース]。それが功を奏してか、[ストライキは9日で遂に終了した](#)[24日、アメリカの声]。

文責：日本クルド友好協会研究員 並木宜史